



深三だより

自主・自立 気品・誠実 気力・体力 社会貢献



ホームページ
QRコード

開校79年

江東区立深川第三中学校
(江東区越中島 3-7-1)

☎ (3641) 5948

発行人

校長 月田 行俊

令和8年9月号 No. 387

ホームページもご覧ください。 <https://fuka3-chu.koto.ed.jp/>

『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ

2021年3月に RISTEX が報告した、「課題解決の対話から 2050 年に向けてつむぐ『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」というものがあり、未来像を次のような手順でつくりました。

①対話からの発言を収集	②断片情報の分類
過去2年半に行われた26の対話で語られた課題解決の現場のステークホルダー(利害関係者)の未来に関する発言(断片情報)を収集	問題意識の表れたものを「来るだろう未来」に、希望や意思の表れたものを「つくりたい未来」に分類し、その後、個人・社会・地球の3つに分類
③情報の整理・文脈化	④文脈を物語化
分類ごとに、断片情報をグルーピングし、背景にある価値観や社会の仕組みを考察。それをベースに、断片情報をつなぎ合わせ文脈として整理	文脈化した「来るだろう未来」と「つくりたい未来」を、イラストと文章で表現。さらに、SF作家の想像力により、フィクション的な物語を創作

その結果、未来を象徴するキーワードは以下のようになりました。

視点	来るだろう未来	つくりたい未来
個人	○少子高齢化 ○社会的分断 ○コミュニケーション不全	○インクルージョン ○Well-being ○人間らしさの重視
社会	○巨大プラットフォームによる中央管理 ○AIへの過度な依存 ○効率性の重視	○自律分散 ○「人」中心の社会 ○人に寄り添うシステム
世界	○食料・資源の不足 ○環境破壊 ○多様性の喪失(画一化)	○資源の共有・循環(持続可能性の向上) ○食文化の維持・発展 ○環境保護・改善

個人視点の内容としては「からだ・こころ」、社会視点の内容は「情報技術」、世界視点の内容は「環境・資源」となっています。例えば、社会視点については、

人々はデジタル化した行政と巨大化したプラットフォームによって、中央集権的に管理・監視されています。また、経済合理や効率性を追い求めた結果、AIへの過度な依存から脱せなくなっています。

<巨大プラットフォームによる中央管理>

- ・プラットフォームが巨大化、行政がデジタル化し、両者が連携することで影響力が増大
- ・巨大プラットフォームが独占した情報を営利活動に利用する流れが加速している。

<AIへの過度な依存>

- ・AIに依存し人々が考えなくなっている。AIが中心となって創作活動をしている
- ・AIが意志決定を行い、人々はそれに無条件に従っている

<効率性の重視>

- ・社会は効率性を追い求め、利便性の向上こそが幸せだと考えている
- ・一部の富裕層は、経済的・物質的な豊かさを追い求めている。

こうした対話から浮かび上がったキーワードを元にして、SF作家・柞刈湯葉氏が「来るだろう未来」の転職活動をテーマに生活のワンシーンを描き出しました。



ある会社員の男性が転職先を探していた。今の職場に数年間勤務し、それなりの成果を挙げていたが社内で正に評価されていないと彼は考えていた。

自分のこれまでの業績はすべて、とある巨大SNSに紐付けられている。社内の連絡もそのSNS内のクローズドスペースで行われているため、ここからAIによって人物像を構成すれば、適職を見つけるためのデータが用意できるようだ。さっそく使ってみると、なかなか有能そうな人物像ができあがった。

ところが、これを転職サイトに連携させようとすると、エラーが表示された。業務上の守秘義務を含みうるデータから構成されているため、外部サイトでの利用には現職場の許可が必要、とのことだった。

転職先を探すのに現職場の許可がいるなんて、そんな馬鹿な話があるか。そう彼は思ったが、最近のSNS側のポリシー変更でそのようになったらしい。確かにコンプライアンスの観点から必要な措置かも

しれないが、自分の業績がSNSに所有されている、という違和感が拭えなかった。

仕方なく守秘義務に抵触しそうな情報を除いていくと、仕事上の業績がほとんど消えてしまい、プライベートで遊んでばかりいる人間のようになった。これではまずい、と思ってそれも除くと、今度は最新の情報が学生時代のものになり、卒業後数年にわたり消息不明だったような人物像ができた。

この恣意的な感じはまるで先日行った友人の結婚式のようなようだった。新郎新婦の人物像も同じような手順で構成されていたらしく、一緒に悪ふざけをしていた学生時代がきれいに除去されて、いかにも品行方正な若者像ができあがっているのを見て、なんだか苦笑いしてしまったのを覚えている。

ふと、一年前に別れた彼女のことを思い出した。

ひどい別れ方をしたせいで、どうやら彼女のほうが自身のデータを削除（あるいは彼女に対して非表示に）したらしい。

道理で、この一年彼女のことをほとんど思い出さなかったのだ。

SNSが構成する「過去の思い出」にも、彼女はまったく出演しない。彼女がどんな人物だったのか、そもそもどんな顔だったのか、今となってはほとんど思い出せなかった。

もしかしたら、こんな未来もあり得るかもしれません。逆に「つくりたい未来」が実現すれば、情報システムとリアルな社会生活の両面で、自律分散型の社会が築かれています。人々は「人」中心の社会を志向し人に寄り添うシステムや技術が、社会生活を支えます。

<「人」中心の社会>

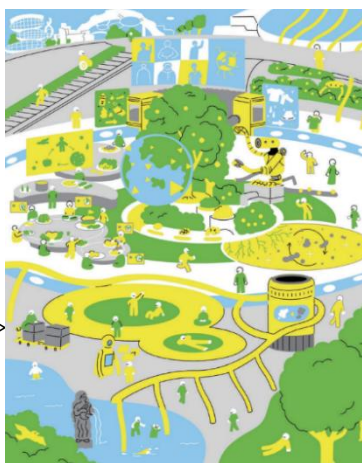
- ・効率性を追い求めすぎず、人が主体となる余白を残した社会を設計している
- ・人口減少に伴い、人々が互いに歩み寄れるいくつかの街に人口や生活機能の集約が行われている

<人に寄り添うシステム>

- ・AIと人間が共存し、アートは人にとって重要な意味を持ち、AIがその創作を助けている
- ・人に寄り添う安全な交通システム、頑強な社会インフラを構築している・IoT、自律型のAIなどが、小さく多様なシステムを構築。

<自律分散>

- ・IoT、自律型のAIなどが、小さく多様なシステムを構築。そのシステムによって集団的意思決定がサポー



トされ、自律分散型の社会の基盤となっている
・地方都市では、その地域にあった自助・共助・公助が行われ、福祉・環境・経済が相互に関連付けられたエコシステムによって栄えている。エネルギーの供給も自律分散システムで制御されている

こうしたことを元にして、「つくりたい未来」の転職活動をテーマに生活のワンシーンを描き出しました。

ある会社員の男性が転職先を探していた。今の職場に数年間勤務し、それなりの成果を挙げていたが社内で正當に評価されていないと彼は考えていた。

とはいえ、このまま退職するのも納得がいかないので、勤務時間を調整し、「半分だけの転職」をすることにした。もともとオフィスに通勤するのは週の半分だけで、残りはリモートであったため、そちらを他の職に当てることにしたのだ。

探してみると、子供のころ住んでいた町がリモート求人をいくつか出しており、応募するとすぐに採用された。労働人口が減少し、とくに地方の人手不足が深刻化しているようだった。

両方の業務が混ざらないように、SNSなど、各種サービスのアカウントも別途用意すると、まるで自分が二人いるかのような気分になった。

故郷での仕事は基本的には画面越しだが、たまにテレプレゼンスの機械を借りて、長く帰っていない地元を歩き回ることもあった。地元に残っていた友人と偶然再会することもあった。こちらが誰なのか説明するのに少々の手間があったが。

そうして一年が過ぎた。あらためて旧職場での評価を見てみると、勤務時間が半分になったのに関わらず、社内での評価がほとんど変わっていなかった。

調べてみると、どうもこの会社は、オフィスに長時間滞在するほど「真面目で仕事熱心」とみなす前時代的な空気が残っているようだった。道理でたいした仕事もしないのに毎日出勤している同僚が、妙に高く評価されているわけだ。彼はやるせない気分になった。

ただ、こうした不満も、自分の「半分」が故郷に戻っている今となっては、いくらか客観的な目線で見ることができる。

こちらの職場の不満をあちらに言い、あちらの愚痴をこちらに流すことで、前よりも日々をやり過ごしやすくなってきたように思う。もちろん、職務上の秘密を漏らさないようにだけは気を使いながら。

2050年、24年後の未来のイメージです。
どう思いますか？

【参考】

https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/contents/common/pdf/crea_te_future2021.pdf

団体のボランティア活動等に関する実態調査

東京都は、ボランティア活動等を推進する中で、各種団体におけるボランティア活動に関する取組状況等についての把握を行うために実施した結果を、令和8年3月に公表しました。

対象は、都内の企業、NPO法人、大学、中学高校、町会自治会1,012団体です。

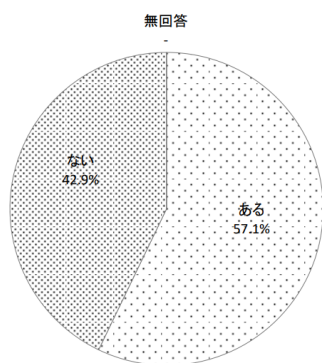
ここでは、中学高校と町会自治会に関する結果を中心に紹介します。

ボランティア活動の取り入れ状況	
①授業または授業以外の教育活動（除く部活動）で取り入れている	73.8%
②授業及び授業以外の教育活動(除く部活動)で取り入れている	11.9%
③授業で取り入れている	9.5%
④授業以外の教育活動(除く部活動)で取り入れている	52.4%
⑤取り入れていない	26.2%

※ ①は②+③+④の合計値

授業で生徒が参加したボランティア活動	
まちづくり・地域貢献のための活動	77.8%
子供を対象とした活動	55.6%
高齢者を対象とした活動	44.4%
自然や環境を守るための活動	33.3%
障害者を対象とした活動 スポーツに関係した活動 文化・芸術・学術に関係した活動 安全な生活のための活動 募金を集める活動	22.2%
町会・自治会の活動 災害に関係した活動 国際協力に関係した活動 金銭や物品を寄附する活動	11.1%

ボランティア活動を行う部活動の有無



町会自治会の活動について

地域交流イベント (祭り、餅つき、運動会、クリスマスなど)	94.4%
防犯活動(パトロール、防犯講習会、振り込め詐欺防止など)	94.4%
防災活動(防災訓練、防災マップ作成など)	93.6%
街の環境整備(清掃活動、緑地の整備など)	87.0%
高齢者見守り活動 (見守り訪問活動、高齢者サロン活動など)	51.9%
子ども・若者育成活動 (伝統文化の継承、スポーツ教室、自然体験、しごと体験など)	44.4%
デジタル活用支援(デジタル機器の使い方講習会やデジタルを活用したイベントなど)	31.5%
子育て世代や子供の見守り活動 (多世代交流サロン、子供の居場所づくりなど)	27.8%
障害者の支援(外出の付き添い、障害者を対象とした防災訓練など)	14.8%
在住・訪日外国人への支援(案内板の多言語化、日常生活を送る上での手助けなど)	5.6%
その他	22.2%

活動を行うにあたっての課題

活動の担い手が不足している	87.0%
活動の担い手が高齢化している	85.2%
町会・自治会に加入しない住民が増えている	77.8%
会費の徴収が難しい	20.4%
町会・自治会の活動を後押しする制度がない	20.4%
活動資金の調達が難しい	16.7%
地域の住民が減少している	13.0%
町会・自治会館などがなく、活動拠点の確保が難しい	13.0%
町会・自治会活動について住民の理解が得られない	11.1%
連携・協力してくれる他の団体が見つからない	5.6%
特定の活動(防災・防犯・子供や高齢者の見守りなど)について専門的な知識がない	1.9%
その他	9.3%

三中の周りにある町会・自治会の状況とは少し異なる結果もあるかもしれませんが、改めてボランティア活動について考えてみましょう。

…教育目標「社会貢献」に関わって

<ボランティア活動の上で大切なポイント 4原則>

■ 自主性・主体性

ボランティア活動は、自分自身の考えによって始める活動であり、誰かに強制されたり、義務として行わせたりする活動ではありません。

■ 社会性・連帯性

社会には様々な課題が存在します。こうした課題を発見し、改善していくためには一人一人考えることと、多くの人と協力しながら力を合わせて行動することが大切です。

■ 無償性・無給性

ボランティア活動は、活動目的の達成によって、出会いや発見、感動、喜びといった精神的な報酬を得る活動であり、個人的な利益や報酬を第一の目的にした活動ではありません。

■ 創造性・開拓性・先駆性

ボランティア活動では、従来の考え方にとらわれることなく、自由な発想やアイデアを大切にしながら、方法や仕組みを考え、創り出していくことが大切です。